

指定文と提示文の特徴について*

熊本 千明

Some Properties of Specificational Sentences and Presentational Sentences

Chiaki KUMAMOTO

論文要旨

文中のある要素に際立ちが与えられるという点で、指定文と提示文には共通点があり、日本語においても、英語においても、並んで論じられることが多い。しかし、両者の意味論的、語用論的機能を調べると、明らかな違いがあり、それは、前提と焦点、旧情報と新情報といった観点からは説明のできないものである。本稿では、日本語の WA-cleft と GA-cleft、英語の WH-cleft と倒置構文に関する議論を整理した上で、様々な実例をもとに、これまで見落されてきた本質的な相違を探る。

I. 序

ここで取り上げるのは、指定文である、英語の WH-cleft と日本語の WA-cleft、提示機能をもつとされる、英語の倒置構文と日本語の GA-cleft である。代表的な例を次に挙げよう。

- (1) What is most embarrassing is losing your keys. (WH-cleft)
- (2) 一番困るのは、鍵をなくすことだ。(WA-cleft)
- (3) Most embarrassing of all is losing your keys. (倒置構文)
- (4) 中でも一番困るのが、鍵をなくすことだ。(GA-cleft)

これらの構文はいずれも、文中の一要素に特に注意を喚起したり、強調したりする機能をもつといわれ、focus constructions の中に位置づけられている。本稿では、これらの構文がこれまでどのように扱われてきたかを概観し、前提と焦点、情報の新・旧というような概念によって、これらの構文の特徴を説明するのには無理があることを指摘したい。「指定文」は、A と B を分けた上で、一方が他方の変項を埋める値である、という判断を下すものであり、「提示文」は、談話に導入される要素に注意を喚起し、出来事全体を丸ごと述べるはたらきをもつものである。これらの構文が示す様々な談話上の特徴は、それぞれの機能をきちんと把握して初めて、説明が可能になると思われる。

II. 日本語の WA-cleft と GA-cleft

最初に、日本語の WA-cleft、GA-cleft の特徴について、簡単にふれておきたい。「A のは B だ」「A が B だ」の形をもつコピュラ文は、いくつかの解釈が可能である。まず、WA-cleft の例を見てみよう。(5) には、二つの読みがある。

(5) 太郎が買ったのは高級時計だ。

a. 太郎が買ったあの時計は、高級時計だ。(指定文)

b. 太郎が何を買ったかといえば、それはある高級時計だ。(倒置指定文)

(5a)は、指定文としての解釈である。この指定文というのは、Aで指示される指示対象について、Bで表示する属性を帰すものである(上林 1988, 西山 2003)。これに対し、(5b)は、倒置指定文としての解釈である。倒置指定文というのは、Aの変項を埋める値をさがし、それをBで指定するもので、(5b)は、[xが、太郎が買ったものである]を満たすxの値は高級時計である、ということを言おうとしているものである。指定文のAが指示的名詞句であるのに対し、倒置指定文のAは、命題関数を表す、非指示的名詞句であり、これを西山(2003)は、「変項名詞句」と呼んでいる。次に、GA-cleftの例を見てみよう。

(6) なんでも反対するのが山田さんだ。

a. どの人が山田さんかといえば、あそこの、何でも反対する人がそうだ。(指定文)

b. 山田さんという人はね、なんでも反対する悪評の高い人物なんだよ。(同定文)

(6)の文は曖昧で、(6a)と(6b)の二つの解釈が可能である。(6a)の解釈においては、「あそこの、何でも反対する人」は、[xが山田さんである]の変項xを埋める値になっている。もう一つの解釈、(6b)は、山田さんという人物は何者なのか—なんでも反対するような人なの—ということが問題となっているケースである。この場合には、特定の人物が念頭に置かれており、山田さんという人はどの人か、さがし出すことが問題になっているわけではない。

さらに、GA-cleftには、(7)のような用法もある。

(7) 特におすすめなのが竹定食です。(提示文)

このタイプの文を、ここでは「提示文」と呼ぶが、このタイプのGA-cleftの特徴については、これまで、様々な議論が行われてきた。(7)は、「特におすすめなのはどれかといえば、竹定食がそうだ」と解釈できそうであり、(8)の倒置指定文と類似した意味をもつような印象を与える。

(8) 特におすすめなのは竹定食です。(倒置指定文)

実際、(7)を、倒置指定文の一種であるとする分析が、天野(1995a, b)に示されている。天野は、このタイプの文を「『が』による倒置指定文」と呼び、後に、「後項焦点文」と呼び方を変えてはいるが、基本的には、「AがBだ」のAの部分は、「前提名詞句」であって、「特におすすめなのがxだ」という前提を構成する要素であり、Bの部分は、「焦点名詞句」であって、xの値を示す焦点を構成する名詞句であるとする考え方を貫いている。天野がこのタイプの文を倒置指定文であるとみなす根拠の一つは、「誰だと思う?」「どれだと思う?」というような句をさしはさむことができるという点である。

(9) このうち、若い女性に人気なのが、どれだと思います?、「百合」コースです。

(10) ゲストの中で特に注目したいのが、誰だと思います?、ニューヨーク・シティ・バレエのダニー・キスラーです。
(天野 1995a: 13)

もう一つの根拠は、Bの名詞句を「例えば」で修飾できるという点である。

(11) 彼には、たくさんの優れた作品がある。外国人にも良く知られているのが例えば『雪国』である。
(天野 1995a: 15)

これらの事実は、Bが焦点名詞句であることを示していると天野は言う。焦点というのを、「際立ち」という位の意味で捉えれば、天野の観察のとおり、(9)-(11)のBの部分には焦点が当てられている、ということが出来るかも知れない。しかし、それだけの理由で、Bは変項を埋める「値」を表す名詞句である、という主張をすることはできない。これらの語句が挿入できたとしても、後続の要素が値になっているとはいえないケースが存在するのである。(12)の例を考えてみよう。

(12) A: ベテランの山田さんが総務係だってね。

B: そうなんです。で、一番若い佐藤さんが、何だと思います?、一番大事な渉外係なんです。
もっと慣れた人を選べばいいのに。 (熊本 2000: 84)

「一番若い佐藤さんが一番大事な渉外係だ」という文は、「一番若い佐藤さん」で [x が一番大事な渉外係だ] の変項 x を埋める指定文である。「何だと思います」、に続く「一番大事な渉外係」が表しているのは、値ではなく、変項なのである。(13)においても、「例えば」によって列挙されているのは、値ではなく、変項の方である。

(13) この条件こそが、例えば、福祉を充実させるために必要なものであり、教育の質を向上させるために不可欠なものであり、そして、何より、経済の立ち直りのために必須のものなので
す。 (熊本 2000: 86)

(7)のタイプの文が、A で変項、B で値を表す倒置指定文の一種ではないことは、熊本(2000)で詳しく論じたが、その議論のもとになったのは、以下の観察である。まず、変項名詞句である(8)の「特におすすめなの」は、代名詞「それ」で受けることができるが、(7)の「特におすすめなの」は、「それ」で受けることができない。

(14) a. 特におすすめなもの、それは竹定食です。

b. ?特におすすめなもの、それが竹定食です。

次に、「特におすすめなの」が変項名詞句であれば、(15a)のように値を選び出すことを求める疑問文を作ることができるはずであるが、(15b)は容認できない。

(15) a. 特におすすめなのは、いったいどれだ。

b. *特におすすめなのが、いったいどれだ。

また、B の部分を限定する、あるいは、より適切なものを選択する、ということができかどうかという点に関しても、倒置指定文とこの種の GA-cleft には違いがある。

(16) a. この中でおすすめなのは、竹定食だけです。

b. *この中でおすすめなのが、竹定食だけです。

(17) a. この中でおすすめなのは、松定食よりむしろ竹定食です。

b. *この中でおすすめなのが、松定食よりむしろ竹定食です。

さらに、倒置指定文との違いは、B の部分を否定できるかどうかという点にも現れている。

(18) a. 特におすすめなのは、竹定食ではない。

b. ?特におすすめなのが、竹定食ではない。¹⁾

このような例によって、問題のタイプの GA-cleft は倒置指定文の一種ではなく、変項と値という観点からは捉えることができないものであることが明らかになる。

砂川(1996, 1999)は、天野の見解を批判し、このタイプの文は後項焦点文というよりもむしろ、「後項特立文」と呼ぶべきものであると主張する。砂川によれば、このタイプの文では、プロソディックな強勢が伴うのは、通常、B よりもむしろ、A の方であるという。この A は、「直前の文脈に関連のある情報に新たな情報を付け加えて特立的な資格を叙述し、その資格を満たす B を提示するための橋渡しをするという機能、すなわち、B を特立提示するためのリード役」(砂川 1996: 65-66)を果たしていると考えるのである。談話構造上の機能に注目した分析は興味深い、その上でなお、砂川(1999)がこのタイプの GA-cleft を指定文の一種としているのは、問題であると思われる。²⁾ この提示機能—後続する談話において想起するため、文中の一要素に注意を喚起するという機能(砂川 1996)—というのは、A と B とを分割して、一方が他方の値であると判断する指定の機能とは、全く異なるものである。このタイプの GA-cleft

は、出来事を丸ごと述べるものであり、野田(1996)は、中立叙述文(「富士山が見えるよ」のような文)の一種であると指摘している。野田によれば、(19)は、主題をもつ(20a)の形ではなく、主題をもたない(20b)の形で言いかえられるものであるという。

(19) このところの不景気をものともせず、冷凍食品の売上が伸びています。特に好調なのが米飯類やめん類など、主食になる商品。

(20) a. 米飯類やめん類など、主食になる商品は特に好調です。

b. 米飯類やめん類など、主食になる商品が特に好調です。 (野田 1996: 106)

問題のタイプの GA-cleft は提示機能をもつ中立叙述文であると考えれば、さまざまな特徴がうまく説明できる。先に(14)で見たように、「が」に先立つ A の部分を取り出して「それ」で受けることができないのは、分割せずに、出来事を丸ごと述べるという中立叙述の特徴によるものであろう。また、ある要素を談話に導入する際の、A の「橋渡し」的性格を考えれば、A の部分に先行談話との結びつきが強い要素が現れることも理解できる。そのような要素がない場合、GA-cleft は容認度が下がるが、WA-cleft にはこうした制約はない。

(21) a. ?思い出すのが、三年前の学園祭だ。

b. そのことで思い出すのが、三年前の学園祭だ。

(22) a. 思い出すのは、三年前の学園祭だ。

b. そのことで思い出すのは、三年前の学園祭だ。

(23) a. ?必要なのが紙やすりとガーゼです。

b. このとき必要なのが紙やすりとガーゼです。

(24) a. 必要なのは紙やすりとガーゼです。

b. このとき必要なのは紙やすりとガーゼです。

「が」は談話における新情報を表すと言われることがあるが、提示文である GA-cleft の A の部分は、むしろ、文脈上旧い要素を要求するのであり、そうした主張が正しくないことを裏付ける良い証拠となる。

ところで、提示文である GA-cleft に現れる「の」には、指定文、同定文、あるいは、倒置指定文に現れる「の」とは異なる特徴がある。もちろん、先行する名詞句 A が、指定文では値名詞句、同定文では特徴記述の名詞句、倒置指定文では変項名詞句であるという性格上の違いはあるとしても、これらの文タイプでは、いずれも、「が」「は」に先立つ「の」を「もの」「人」に置きかえても実質的な意味は変わらない。

(25) a. あそこに立っているのが委員長です。(指定文)

b. あそこに立っている人が委員長です。

(26) a. 莫大な借金を肩代わりしてくれたのが山田さんです。(同定文)

b. 莫大な借金を肩代わりしてくれた人が山田さんです。

(27) a. 犯人が盗んだのは CD だ。(倒置指定文)

b. 犯人が盗んだものは CD だ。

これに対し、提示文の GA-cleft の場合には、「の」を「もの」「人」で置きかえることはできない。

(28) a. そんなとき思い浮かぶのが母の顔だ。(提示文)

b. ?そんなとき思い浮かぶものが母の顔だ。

(29b)、(30b)が容認可能であるとしても、それは、別な読み、例えば、同定文や指定文の読みができるからであり、提示文としての解釈は不可能であると思われる。

(29) a. 特におすすめなのが竹定食です。(提示文)

b. 特におすすめなものが竹定食です。(同定文・指定文)

(30) a. 突然そこへ飛び込んできたのが太郎だ。(提示文)

b. 突然そこへ飛び込んできた人が太郎だ。(同定文・指定文)

提示文の GA-cleft に現れる「の」を「もの」「人」などの形式名詞とすることはできない、という事実は明らかになったが、この文タイプの A の特性に関する考察はまだ不十分である。例えば、指定文に現れる叙述名詞句と類似した特徴をもつようにも思われるが、ここではこれ以上、立ち入らないことにする。

III. 英語の指定文と倒置構文

今度は、英語に目を向けて、WH-cleft と倒置構文³⁾の特徴をさぐることになろう。英語の倒置構文は、提示機能をもつとされるが、日本語に訳す場合に、提示文の GA-cleft が用いられることがよくある。

(31) Equally difficult would be a solution to Russell's paradox.

(同じくらい難しいのがラッセルのパラドックスを解くことだろう。)

(32) Buried under the old church are six martyrs.

(その古い教会の下に埋葬されているのが6人の殉教者たちです。)

(33) Out of the house stepped Keith Sebastian.

(中からでて来たのがなんとキース・セバスチャンだった。)

(福地 1985: 111-127)

WH-cleft を訳す際には、倒置指定文の WA-cleft が用いられる。

(34) What John bought yesterday was a car.

(ジョンが昨日買ったのは車だ。)

英語においても、提示文である倒置構文と、指定文である WH-cleft が比較して論じられることがしばしばある。例えば、Hetzron(1975)は、WH-cleft を cataphoric sentence と呼び、焦点となる要素が文末にあるという点を強調した上で、it-cleft よりも、むしろ、倒置構文との類似性を主張している。Hetzron によれば、(35)も(36)も、新しい情報を担う要素を文末に動かす presentative movement (特立) 提示移動によるもので、両者の違いは、提示機能の強さ—(36)のほうが(35)よりも強い提示機能をもつ—という点にあるという。

(35) Round the bend came the train.

(36) What came round the bend was the train.

(Hetzron 1975: 375)

一方、it-cleft と WH-cleft には大きな違いがあり、(37)と(38)を比べてみると、it-cleft は前提をもつのに対し、WH-cleft には前提がなく、今、初めて、何かを求めていることと、その求められている対象が示される、ということがありうるという。

(37) It is a good clean-up job that I want.

(38) What I want is a good clean-up job.

(Hetzron 1975: 361)

しかし、よく知られているように、Prince(1978)などでは、it-cleft よりも、むしろ、WH-cleft の WH 節の方が聞き手の意識にあると考えられる情報を示すとされており、この点の食い違いは、さらに検討する余地があると思われる。提示文に指定の機能を認める考え方は多くみられるが、Hetzron のように、指定文である WH-cleft を提示機能の観点から捉える見方は珍しく、興味深い。

提示文の特徴を指定文との類似によって説明した例には、Rochemont(1978)がある。Rochemont(1978)は、it-cleft を用いて倒置構文をパラフレーズすることが可能であるとし、主語の後置には主語を際立たせる機能があるということが、この対応関係から見とれると述べている。

(39) a. Out of the house walked John.

b. It was John that walked out of the house.

(40) a. Less fortunate was the girl in the back seat.

b. It was the girl in the back seat who was less fortunate. (Rochemont 1978: 25-30)

のちに、Rochemont(1986)では、presentational focus と contrastive focus を区別することが提案され、提示文における焦点と *it*-cleft における焦点は区別されることになる。その際に問題となるのは、(41)に挙げた、*c-construable* という概念である。

(41) *a* is *c-construable* if (i) *a* is under discussion, or (ii) *a* is an indexical expression.

(Rochemont 1986: 174)

presentational focus⁴⁾ の場合には、焦点となる要素は *c-construable* でないこと、contrastive focus⁵⁾ は、文全体からその焦点を引いたものが *c-construable* であるような場合の焦点であること、などが論じられている。しかし、実際には、*c-construable* な要素が提示文の焦点の位置に現れる例は数多い。Birner(1996)が指摘するように、(42)は、presentational focus の NP が既に話題に上っており、したがって *c-construable* となっているケースである。焦点についての Rochemont(1986)の規定は不十分なものであることがわかる。

(42) Nusseibeh's unusual predicament causes concern all around. His friends fear that Arab hard-liners will turn on Nusseibeh, thinking he is an Israeli ally.

The Israelis, who certainly want to squelch the 17-month-old uprising in the West Bank and Gaza Strip, are under intense pressure from the United States not to jail moderates who may figure in their election proposal for the territories occupied since the 1967 war.

*Most immediately affected is Nusseibeh himself.*⁶⁾ (Birner 1996: 60 ["West Bank prof is either on the spot or off the hook," *Chicago Tribune*, 5/21/89. sec.1, p.5])

ある要素が焦点となる、という点において *it*-cleft と提示文は類似している、という単純な議論から、両者の区別に向かったことは評価できるが、両者の違いは、文中のある部分が目下の話題になっているか否かというような点以外のところに求められなければならないと思われる。

次に、久保田(1981)の議論にふれておくことにしたい。久保田は、(43)のような例を引いて、WH-cleft と、倒置構文⁷⁾の意味上、形式上の類似性を考察する。

(43) a. Equally inexplicable was his behaviour towards his son.

b. What was equally inexplicable was his behaviour towards his son. (久保田 1981: 29)

全く同じ性質で、という訳ではないと断った上で、いずれの場合にも、主語がリストの「分類見出し」、*be* 動詞に続く要素がその分類見出しに適合する「唯一の項目(ないし集合)」に相当し、ある条件を満たすものはどれかといえば、これだ、という解釈ができると、久保田は言う。これは、概略、文末の要素が指定文の値になっている、という主張と同じであることに注意しよう。全く同じ性質であるという訳ではない、と言うのであれば、(43a)と(43b)の違いはどこにあるのか、説明する必要があるが、それは明らかにされていない。ただ、久保田が、(44)のように、倒置構文においては先行談話との連結性が必要であることを指摘しているのは、注目に値する。

(44) a. More important has been the establishment of legal service.

b. ?Important has been the establishment of legal service. (久保田 1981: 28)

提示文と指定文を並べて論じた例として、もう一つ、Dorgeloh(1997)の議論を取り上げることしよう。Dorgeloh は、(45)-(48)の例について、(45)の前置された PP は、predicative であって、動詞の後

の NP の指示対象について何かを述べるはたらきをするが、(46)-(48)の *be* 動詞の前の要素は、解釈し直されて、*predicative* ではなく *referential* な要素になっている、と主張する。

(45) In the garden stands a fountain.

(46) In the garden is a fountain.

(47) Also present is a beautiful statue.

(48) Even more beautiful is the small pavilion in the back of the garden. (Dorgeloh 1997: 39)

そして、*be* 動詞の前に置かれた要素が *referential* であるということは、(49)-(52)との類似から明らかであると Dorgeloh は言う。

(49) What stands in the garden is a fountain.

(50) What is in the garden is a fountain.

(51) What is also present is a beautiful statue.

(52) What is even more beautiful is the small pavilion in the back of the garden.

(Dorgeloh 1997: 39)

(46)-(48)は、WH-cleft のような *contrastive* な意味合いはもたないとしても、同様に、*specificational* な文として解釈される傾向があると、Dorgeloh は述べている。

この議論のもとになったのは、(53)のような文において、主語の位置にある PP が *referential expression* と解釈される、という観察である。

(53) Under the chair is a nice place for the cat to sleep.

(Bresnan 1994: 110)

確かに(53)の一つの読みにおいては、*under the chair* は、*referential* に解釈することができるが、その場合、(53)は、椅子の下という指示対象について、猫が寝るのに良いところ、という属性を帰しているわけである。これは、指定文としての解釈である。しかし、この解釈をそのまま、(46)-(48)に当てはめることはできない。例えば、(46)の *in the garden* を指示的にとり、「庭の中」というものは、泉であるという性質をもつ、と解釈とするのは奇妙であろう。(47)、(48)についても、*also present* や *even more beautiful* で世界の中のある対象を指し、それが *a beautiful statue*、*the small pavilion in the back of the garden* という性質をもつ、という解釈が意図されているわけではない。*be* 動詞の場合には主語の位置の要素が NP と解釈されやすい、ということがあったとしても、(53)と(46)-(48)では、文のタイプが異なっており、並行的に論じることはできないのである。⁸⁾

また、WH-cleft と類似していることから、倒置構文の *be* に先立つ要素が指示的であることがわかる、とする Dorgeloh の議論は、指定文である WH-cleft の WH 節を指示的であると捉えている点に、問題がある。WH-cleft の WH 節が、(多少、弱いとしても)指示性を持つという主張は、Declerck(1988)をはじめ、多くの人に見られるものであるが、Higgins(1979)、西山(2003)などは、この主張が誤りであることを示している。指定文の変項を表す名詞句は命題関数を表し、世界の中の対象を指示するのではない、ということは、先に、日本語に関する考察の中でもふれた。Dorgeloh は、倒置構文の文頭の要素は名詞句であり、指示的であるという想定から出発して、WH-cleft に現れる名詞句の特質を見極めることをせずに、倒置構文と WH-cleft の共通点を論じているわけであるが、こうした議論に不備があることは明らかである。

以上のような議論をふまえた上で、実際に、WH-cleft と倒置構文にはどのような違いがあるのか、例を見ながら考えていくことにしよう。Rochemont(1986: 111)は、倒置構文の文末の要素が焦点であることを、(54d)、(55d)の文がいずれも疑問文の答えとして適切である、ということによって示そうとしている。しかしながら、実際には、a. から d. に向かって、だんだんと不自然になっていく。

- (54) Who ran into the forest?
- a. Robin Hood ran into the forest.
 - b. It was Robin Hood (who ran into the forest).
 - c. The one who ran into the forest was Robin Hood.
 - d. ?Into the forest ran Robin Hood.
- (55) What was standing next to the fire place?
- a. A large old sofa stood next to the fireplace.
 - b. It was a large old sofa (that stood next to the fire place).
 - c. What stood next to the fire place was a large old sofa.
 - d. ?Next to the fireplace stood a large old sofa.

Birner(1996)にも、倒置構文が疑問文の答えとして不自然であることについての言及があるが、その理由が、Birnerの言うように、一語一句の同語反復があるから、というのであれば、同じように繰り返しを含む a. から c. が容認可能であることが説明できない。倒置構文は、*it-cleft*、*WH-cleft* などの指定文と異なり、問に対する答えの指定という機能をもたない、という特性を考慮して初めて、*WH* 疑問文に対する答えとして倒置構文が不適切である理由が、説明できることになるであろう。

否定と共起するかどうか、という点も、*WH-cleft* と倒置構文の機能の違いを知る手がかりとなる。先に、提示文である日本語の *GA-cleft* は、倒置指定文の *WA-cleft* と異なり、B の部分を否定することができないことを指摘したが、英語の倒置構文も同様、本質的に否定とは相容れないものである。しかし、英語の倒置構文の方は、否定した場合に *but...* 以下を付け加えれば、容認可能となる。

- (56) a. *Standing in the doorway was not Mary.
 b. Standing in the doorway was not Mary but her sister Sarah.
- (57) a. *Still unexplained is not example (32).
 b. Still unexplained is not example (32) as has been reported but example (25).

一方、*WH-cleft* は、*but...* 以下を付け加えることなく、*be* 動詞の後の要素を否定することができる。

- (58) a. The one who was standing in the doorway was not Mary.
 b. The one who was standing in the doorway was not Mary but her sister Sarah.
- (59) a. What is still unexplained is not example (32).
 b. What is still unexplained is not example (32) as has been reported but example (25).

指定文の場合には、あるものが変項を埋める値としてふさわしくない、と述べても、値の選択という機能と矛盾しないが、提示文の場合には、何かしらの要素を導入しなければ、提示という機能を果たすことができない。否定との共起に関する相違には、*WH-cleft* と倒置構文のこうした機能上の違いが反映されているのである。

選択が行われていることを明示する表現を加えることができるかどうかについても、倒置構文と *WH-cleft* では違いがある。上で、倒置構文を否定した場合に、*but...* 以下を付け加えれば良くなると言ったが、はっきりと二者択一を示す *rather than* を倒置構文で用いるのは難しいようである。「選択肢」というものが、値の選び出しという機能をもつ指定文にとっては自然でも、出来事、状況の中に位置づけられている要素に目を向ける提示文とは、なじまないのは、十分予想されることであろう。

- (60) a. ?Of great concern to us is the shortage of qualified candidates for the job, rather than the rising payments.
 b. What is of great concern to us is the shortage of qualified candidates for the job, rather

than the rising payments.

- (61) a. ?Excluded from the list was the popularly acclaimed 1925 poem, rather than the sharply criticized 1928 poem.
 b. What was excluded from the list was the popularly acclaimed 1925 poem, rather than the sharply criticized 1928 poem.

ここで、談話の中で倒置構文と WH-cleft を入れかえた場合に容認度がどのように変わるか、見ていくことにしたい。まず、倒置構文がもともと使われていたところに WH-cleft を入れかえてみると、不自然になる例を挙げよう。(62)は、物語の本に加えて主人公の人形を売り出した、という話である。

- (62) Each of the characters is the centerpiece of a book, doll and clothing collection. The story of each character is told in a series of six slim books, each \$12.95 hardcover and \$5.95 in paperback, and in bookstores and libraries across the country. More than 1 million copies have been sold; and in late 1989 a series of activity kits was introduced for retail sale.

Complementing the relatively affordable books are the dolls, one for each fictional heroine and each with a comparably pricey historically accurate wardrobe and accessories... / ?What complements the relatively affordable books are the dolls, one for each fictional heroine and each with a comparably pricey historically accurate wardrobe and accessories... (Birner 1996:60 ["Barbie backlash" Chicago Tribune, 1/4/90, sec.5., p.3])

- (63) この比較的手ごろな本と対になっているのが／？は、人形で、物語の主人公それぞれの人形があり、どれも同じように高価な、時代考証も正確な衣装とアクセサリをつけている。

日本語でも、WA-cleft より GA-cleft の方が良いというのは興味深い。WA-cleft や、WH-cleft を用いると、本と人形が分けられてしまった印象を与える。本と対になっているものは何か、という問いかけをし、それに対する答えとして、人形が挙げられる、という形になるのである。GA-cleft、倒置構文の場合は、本と人形が対になっている、というありようを述べるものとなる。次に、(64)の例を見てみよう。これは、飾り棚の広告である。

- (64) DISPLAY YOUR TREASURES! We all have collectibles that we'd like to put on display. However, where and how to exhibit them to their best advantage is a common decorating problem. *Designed specifically to meet such a need is our elegant Curio Shelf. / ?What is designed specifically to meet such a need is our elegant Curio Shelf.*

この文脈においては、まさにその目的のために Curio Shelf が作られたということを述べ、Curio Shelf に注意を引きたいのである。ところが、WH-cleft を使うと、そのような要求を満たすものがあるのだろうか、それは何かという疑問が先立ち、その答えを与える、という形になる。(65)の例は、WH-cleft を用いることは可能であり、それ自体には問題がなくても、*of all* があるために冗長になる例である。*of all* を除けば、容認度は上がる。WH-cleft は、倒置構文ほど、先行談話との密接な関りを要求しないことがわかる。

- (65) Well, many things are embarrassing: forgetting your own home phone number, not being able to name the professor you are taking a class from, having coffee stains on your shirt. *But I am sure that most embarrassing of all is losing your keys. / ?But I am sure what is most embarrassing of all is losing your keys. (Chen 2003: 150)*

今度は、本来 WH-cleft が使われていたところに、倒置構文を入れかえると不自然になる例を挙げることにしよう。

- (66) The syntactic behaviors of *it*-cleft sentences, therefore, are straightforward, so is their semantics: there are no semantic restrictions on any of the constituents. What is left to account for is their pragmatics, which seems straightforward as well. / ?Left to account for is their pragmatics, which seems straightforward as well. (Chen 2003: 6)

この場合、*it*-cleft の syntax と semantics については、説明は要らない、では何が説明を必要としているのか、ということが問題となっているので、その答えを指定する WH-cleft が適当である。倒置構文の場合は、いきなり pragmatics に目を向けて、状況を語り始める印象を与える。もし、倒置構文を用いるのであれば、(67)のように、何かしら、つなぎとコントラストを明示する語句を加えることが必要になる。

- (67) Nevertheless, still left to account for is their pragmatics, which seems straightforward as well.

(68) も、倒置構文が使いにくい例である。

- (68) A: Those apples are good, aren't they?

B: So they are! What keeps me from eating all of them is (the idea) that mother will be furious if I don't leave any for the others. / ?Keeping me from eating all of them is the idea that mother will be furious if I don't leave any for the others. (Declerck 1988: 216)

ここで要求されているのは、おいしいのになぜ全部食べないのか、という問いかけに対する答えである。他の人のために残しておかないと母が怒る、ということは、問の答えとして意味をもつものであり、このこと自体に注意を向けて、全部食べるのを控えている、という状況を記述することが大事なのではない。WH-cleft の場合には、先行談話と直接つながりのある要素を用いなくても良く、新たに質問を設定し、それに対する答えを提供することが可能である。

これまで見てきたような英語の倒置構文と WH-cleft、日本語の GA-cleft と WA-cleft の特徴を考えると、(69)-(72)において、どのような内容を持つ文が後続するのが自然か、ということも説明がつく。(69)、(71)は、「選び出し」が行われている例で、WH-cleft、WA-cleft と相性が良く、(70)、(72)は、*menu B* や、「竹定食」が以後の談話で言及されるために導入された例で、英語の倒置構文、日本語の GA-cleft と相性が良い。

- (69) (The restaurant offers three dinner menus.) Highly recommended / What is highly recommended is menu B. Menu A is too expensive, and menu C is less than satisfactory.

- (70) (The restaurant offers three dinner menus.) Highly recommended / ?What is highly recommended is menu B. It is reasonably priced, and the quantity is more than sufficient.

- (71) 中でもおすすめなのは、竹定食です。松定食は少し高いし、梅定食は物足りません。

- (72) 中でもおすすめなのが、竹定食です。この竹定食は値段が手頃で、ボリュームもあります。

もちろん、日本語の GA-cleft と英語の倒置構文、日本語の WA-cleft と英語の WH-cleft が、一対一対応するわけではないが、きわめて類似した特徴を備えていることがわかるであろう。

最後に、(73)の例を見ておこう。(73)では、倒置構文を WH-cleft に変えても、不自然ということはないが、異なった見方を示すようになるのは明らかである。視点を誘導しながら、状況全体を記述する倒置構文と、他の場所とのコントラストを含意し、そこには何があるのか、という問いかけをして答えを与える WH-cleft、両者の機能の違いが見てとれる。

- (73) The pleasant Hyde Park is large enough to offer a break from traffic and crowds, but retains a city feel.

At the northern end is the richly symbolic Art Deco Archibald Memorial Fountain. / What is

at the northern end is the richly symbolic Art Deco Archibald Memorial Fountain. Sydney Archibald, founding editor of *Bulletin* magazine, bequeathed the fountain to the city. The statues are from Greek mythology. *Near Liverpool St., at the southern end, is the dignified Anzac Memorial (1934), / What is near Liverpool St., at the southern end, is the dignified Anzac Memorial (1934),* which has a small free exhibition of photographs and exhibits covering the wars Australians have fought in. (甲斐 2004:41 [S. O'Brien, Sydney])

「北の端にあるのが」と「北の端にあるのは」、「南端、リバプール通りの近くにあるのが」と「南端、リバプール通りの近くにあるのは」を比較してみると、やはり、同様の違いが感じられるであろう。

VI. 結語

ここでは、日本語の WA-cleft と GA-cleft、英語の WH-cleft と倒置構文を取り上げ、指定と提示という観点から考察を行った。前提と焦点、情報の新・旧という概念によっては、提示文と指定文の特徴を捉えることはできず、出来事を丸ごと記述するか、二項に分離するか、また、談話に導入するために、ある要素に注意を喚起するのか、一方の変項を埋める値を他方で指定するのか、という、機能の違いを把握することが大切であることが示された。日本語の提示文の GA-cleft における A の名詞句の性格づけ、英語の様々なタイプの倒置構文の比較など、大切な問題が残されているが、また、稿を改めて論じることとしたい。

*本稿は、日本英文学会九州支部第58回大会(2005年10月29日 於:長崎大学)における口頭発表に加筆、修正を施したものである。有益な助言を下された西山佑司先生、出席者の方々、例文のチェックをして下さった Gregory K. Jember 氏に謝意を表する。

註

- 1) B の部分が否定されても奇異に感じられない GA-cleft は、提示文ではない。例えば、(i) は、同定文である。
 - (i) 迷わせまいとするのが教育ではない。
- 2) Sunakawa (1999: 27) は、「指定文」を以下のように分類している。
 - (i) a. Postposed Focus Sentence: A wa B da — ‘Shared Information First’
Saigo ni dete kita no wa ookina kuma datta.
(As for) the one which appeared last (it) was a big bear.
 - b. Prepsed Focus Sentence: B ga A da — ‘Urgent Information First’
Taroo ga gakusee da.
It is Taro who is a student.
 - c. Presentative Sentence: A ga B da — ‘Persistent Information Last’
Saigo ni detekita no ga ookina kuma datta.
The one which appeared last was a big bear.
- 3) 倒置構文には様々なタイプがある。例えば、Chen (2003) には、次のような分類が示されている。
 - (i) LOC BE (Including PART + LOC BE and LOC NBE): 分詞、場所表現が be 動詞(あるいはそれ以外の動詞)の前に現れるもの。
 - 例) Behind every good man is a good woman. (Chen 2003: 56)
 - Sitting on my left was Tom Lopez. (Chen 2003: 57)
 - Beside it sparkles the community pool. (Chen 2003: 57[VF 8/01:57])
 - (ii) PATH Vm (Including TEMP Vm): 動きを表す動詞の前に path、あるいは temporal な要素が現れるもの。

例) Into the room darted Lopez. (Chen 2003: 75)

First came the embarrassment. Now comes the challenge. (Chen 2003: 90)

(iii) NSPAT *BE*: *be* 動詞の前に nonspatial な要素が現れるもの。

例) Among the reasons for its selection was the existence of this particular facility...(Chen 2003: 95 [NY 08/21 & 28/00:106])

Particularly important was the discovery that many computer viruses have no known source. (Chen 2003: 99 [Swales and Peak 1994: 145])

ここでは、WH-cleft との比較という観点から、主として、*be* 動詞が現れる (i) と (iii) のタイプを扱うことにする。もちろん、あらゆる英語の倒置構文が日本語の提示文の GA-cleft と対応する、という主張をしようとするものではない。

- 4) ‘..., since it is required of a Presentational Focus that it not be c-construable in the context at hand.’ (Rochemont 1986: 115)
- 5) ‘If *a/S* is directly c-construable, where *a/S* is the result of extracting *a* from *S*, and *S* is not c-construable, then *a* is a Contrastive focus.’ (Rochemont 1986: 175)
- 6) 提示文の GA-cleft においても、「ほかならぬ...」「...その人」というような強意語がしばしば用いられるのは、興味深い。
- 7) 久保田自身は、これらの文を「倒置構文」とは考えていない。主語の位置にある要素は、初めからこの位置に生じたものである、と述べている。
- 8) あるいは、(53)は、under the chair = a nice place for the cat to sleep という identification の関係を表し、コンピュータの前後の要素はどちらも referential であるので、同じようにコンピュータの前後が referential であると考えられる (46)-(48) と並行的に論じることができる、というような主張がなされるかもしれない。この場合の ‘identification’ は、われわれの言う「指定」(cf. 「椅子の下が猫が寝るのに良い場所である」)であるが、指定文には変項を表す非指示的な名詞句が現れ、A と B を等号で結ぶことのできるような関係を表すのではないことは、上林(1988)、西山(2003)において十分な議論がなされている。また、指定の関係を表すという場合、(53)と(46)-(48)では、変項と値の関係が逆になっていることに注意すべきである。同様に NP 的な解釈がなされるといっても、文頭の要素は、(53)では値、(46)-(48)では変項であるので、同列に扱うことはできない。むしろ、PP を referential であると解釈しない(53)のもう一つの読み、「椅子の下に猫が寝るのに良い場所がある」の方が、(46)との対応を示すものである。

参考文献

- 天野みどり(1995a)「『が』による倒置指定文—『特におすすめなのがこれです』—という文について」新潟大学『人文科学研究』88輯, 1-21.
- 天野みどり(1995b)「後項焦点の『A が B だ』文」新潟大学『人文科学研究』89輯, 1-24.
- Birner, B. J. (1996) *The Discourse Function of Inversion in English*, Garland, New York.
- Bresnan, J. (1994) “Locative inversion and the architecture of universal grammar”, *Language* 70, 72-131.
- Chen, R. (2003) *English Inversion: A Ground-before-Figure Construction*, Mouton de Gruyter, Berlin.
- Declerck, Renaat (1988) *Studies on Copular Sentences, Clefts and Pseudo-Clefts*, Leuven University Press, Leuven.
- 福地肇(1985)『新英文法選書10 談話の構造』大修館書店, 東京.
- Hetzron, R. (1975) “The presentative movement or why the ideal word order is V. S. O. P.”, in C. Li (ed.), *Word Order and Word Order Change*, 347-388, University of Texas Press, Austin.
- Higgins, F. R. (1979) *The Pseudo-Cleft Construction in English*, Garland, New York.
- 甲斐雅之(2004)「Travel-Guide Text における場所句倒置文と非倒置文について」京都女子大学『英文学論叢』第48号, 34-49.
- 上林洋二(1988)「指定文と指定文—ハとガの一面—」『筑波大学文藝言語研究・言語編』14, 57-74.
- 久保田正人(1981)「主語の位置に生ずる名詞句以外の主要句範疇の機能と有標性」『英語学』24, 25-43, 開拓社, 東京.
- 熊本千明(1989a)「日・英語の分裂文について」『佐賀大学英文学研究』第17号, 11-34.
- 熊本千明(1989b)「指定と同定—「...のが...だ」の解釈をめぐる—」大江三郎先生追悼論文編集委員会・編『英語学の視点』307-318, 九州大学出版会, 福岡.
- 熊本千明(1992)「日・英語のコピュラ文に関する一考察」『佐賀大学英文学研究』第20号, 49-67.
- 熊本千明(1995)「同定文の諸特徴」『佐賀大学教養部研究紀要』第27巻, 147-164.
- 熊本千明(2000)「指定文と提示文—日・英語の観察から—」『佐賀大学文化教育学部研究論文集』第5集 第1号, 81-107.

- 西山佑司(2003)『日本語名詞句の意味論と語用論—指示的名詞句と非指示的名詞句—』ひつじ書房, 東京.
- 野田尚史(1996)『新日本語文法選書Ⅰ「は」と「が」』くろしお出版, 東京.
- 大江三郎(1984)『英文構造の分析—コミュニケーションの立場から—』弓書房, 東京.
- Prince, E. F. (1978) "A comparison of WH-clefts and *it*-clefts in discourse", *Language* 54, 883-906.
- Rochemont, M. (1978) *A Theory of Stylistic Rules in English*, Doctoral Dissertation, University of Massachusetts.
- Rochemont, M. (1986) *Focus in Generative Grammar*, John Benjamins, Philadelphia.
- 新屋映子(1994)「意味構造から見た平叙文分類の試み」『東京外国語大学日本語学科年報』15, 1-15.
- 砂川有里子(1996)「日本語コピュラ文の談話機能と語順の原理—『A が B だ』と『A のが B だ』構文をめぐって」『筑波大学文藝言語研究・言語編』30, 53-71.
- Sunakawa, Y. (1999) "Word order of Japanese copular sentences", 『日本語の語順の原理と文の談話機能に関する基礎研究』平成8年度～平成10年度文部省科学研究費補助金・基盤研究(C)(2)研究成果報告書, 21-30.